

今回の学習会について

社会福祉士のアドボカシー能力は、われわれのもっとも重要な属性のひとつである。しかしながら、アドボカシー行為を行う社会福祉士とは何者か。アドボケートされる利用者とはいかなる存在なのか。社会福祉援助技術の文脈では、このことは「自己覚知」や「支援の対象」として自然主義的な把握がなされている。今回の学習会では、そういった方法をいったん脇に置き、相談援助関係を哲学的に捉える考え方を提示したい。

「他者論」として独自の倫理学を構築した現代フランスの哲学者エマニュエル・レヴィナスの研究者であり、慶應義塾大学商学部専任講師の渡名喜 庸哲氏を講師に迎え、「支援する主体」と「他者」について社会福祉学の方法論を相対化し、現代思想の成果を学ぶ。

具体的には、哲学の基本的スタンスとソーシャルワークとのちがいの確認、ソーシャルワークの基本概念的な哲学的な吟味、具体的な事例の哲学的な解釈などをディスカッション形式で行う。

講師プロフィール

1980年、福島県生まれ。東京大学大学院総合文化研究科博士課程満期退学。パリ第7大学社会科学部博士課程修了。博士（政治哲学）。日本学術振興会特別研究員、東洋大学国際哲学研究センター研究助手を経て、現在慶應義塾大学商学部専任講師。

著書に「顔とその彼方—レヴィナス『全体性と無限』のプリズム」（共著、知泉書館、2014年）ほか。

訳書にルイ＝サラ・モランス『ソドム：法哲学への銘』（共訳、月曜社、2010年）、ジャン＝ピエール・ルゴフ『ポスト全体主義時代の民主主義』（共訳、青灯社、2011年）、ピエール・ブーレッツ『20世紀ユダヤ思想家：来るべきものの証人たち』第1巻～第2巻（共訳、みすず書房、2011年）、ジャン＝リュック・ナンシー『フクシマの後で 破局・技術・民主主義』（以文社、2012年）、エマニュエル・レヴィナス『レヴィナス著作集 第1巻』（共訳、法政大学出版、2014年）ほか。



講師

慶應義塾大学商学部専任講師

と な き よ う て つ

渡名喜 庸哲 氏

会場案内地図



江東区文化センター 4階
第2・第3会議室

江東区東陽4-11-3
TEL 03-3644-8111

交通

東京メトロ東西線
「東陽町」駅
1番出口より徒歩5分

「東京社会福祉士会 プレゼンツ」

これからの

「福祉」の

話をしよう

現場の Advocacy
What's Socialwork ?

社会福祉士

ための哲学

Yotetsu Tonaki

講師 渡名喜庸哲氏

慶應義塾大学 商学部 専任講師

権利擁護
委員会
学習会

2015
2月12日(日)開催
時間午後1時00分～4時00分

会場 江東区文化センター 4階 第2・第3会議室 (江東区東陽4-11-3)裏面地図参照

申込先 担当:間庭(まにわ)に連絡 携帯:090-5553-7024・Email:mutimuti-tanuki@aa.isas.ne.jp

参加費 300円 テーマに関心のある方であればだれでも参加可